

指定管理者評価シート

Ⅰ 管理運営の状況

1 施設名	仙台市愛子児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 29,053人(前年度比 107.2%) 令和5年度 27,097人 令和4年度 23,400人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 72,777千円(66,442千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
	()は前年度決算額
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

Ⅱ 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。 なお、児童館管理業務仕様書において月に1回以上実施しなければならないと定めている避難訓練等を実施していない月があった。	30/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、こども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、様々な地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流が図られている。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
重点目標として「様々な遊びや人との関わりを通して子どもの健全育成を図る」を掲げ児童館運営に取り組んできました。まず子育て家庭支援事業としては、乳幼児親子の交流を通して子育て家庭を支援することをねらいとした「たっぴい0ちゃんタイム」1～3歳児親子を対象にした「たっぴいタイム1.2.3」を月2回行いました。年齢に合わせた工作や運動遊び、クリスマスや節分など季節に合わせた行事が好評で親子活動を通して子どもの成長を感じる機会になっていました。また行事後不定期で開催した「ママカフェ」はお茶を飲みながら子育ての悩みや情報交換をしたり、たんぽぽホームの方に相談したりすることで子育ての悩みや孤立感の解消にも大きく寄与することができました。 次に児童健全育成事業としては、「YOSAKOI踊り隊」と称して希望者を募りよさこい踊りを館行事だけでなく、宮城学習フェアや宮城社会福祉センター節分芸能祭等地域に披露しました。当初は緊張気味の子どもたちでしたが回を重ねるにつれ達成感を高めるだけでなく、地域交流にも広げることができました。 最後に地域交流推進事業では、宮城地区児童館4館連携で宮城地区まつりへ出展しました。当日は千名ほどの来場があり、遊びを通し、児童館事業を地域に紹介しました。また、夏休み期間は児童クラブの利用が多く乳幼児親子の利用が難しい状況が続いたことを踏まえ社会福祉センターと連携しセンター集会室を会場に乳幼児親子対象の「あそびのひろば」を設けました。利用者からは乳幼児の遊び場、親子交流の場として有意義であったという声が聞かれました。さらに新行事の「メンコ大会」を折紙で自作したメンコを使ってトーナメント形式で開催しました。1年生が上学年に勝って優勝する等、学年に関係なく多くの子が笑顔で参加・交流することができました。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、「YOSAKOI踊り隊」を登録制で年間通して活動している。申込数が大幅に増えたことから登録数を変更してグループに分け、希望する児童が参加できるように工夫した。「たっぴいフェス」や地域のイベントで発表する機会を設け、こども達の達成感や自己有用感を高める支援を行った。中高生タイムを毎週土曜日に設け、遊戯室やスタディールーム等専用で利用できる環境を整えたことでバスケットやバドミントンの練習に来館する生徒が増え、中高生の居場所の一つとなってきた。日々のメンコ作りを発展させた「メンコ大会」は多く児童が参加し、勝敗の経験がより強いメンコ作りや遊び方の興味関心に繋がり、さらなる遊びの充実に繋がっている。 子育て家庭支援事業においては、「たっぴいタイム1.2.3」では、年齢発達に併せた遊び、季節の行事や工作、保護者のリフレッシュ等多彩なプログラムで実施している。「たっぴいタイム1.2.3」の後の「ママカフェ」は、ゆっくり保護者同士の交流が持てることで保護者から好評を得ており、利用者の増加に繋がっている。また、0歳児対象の定例行事を自由参加に変更したり、毎月の乳幼児の行事にはたんぽぽホームの職員が参加し、一緒に過ごす中で気軽に相談できる機会を提供するなど様々な取り組みを通して地域の子育て家庭を支援している。 地域交流推進事業においては、地域ボランティアによる小学生対象の「おはなし会」を実施し、本への興味や豊かな感性を育んだ。ボランティアに向けて館長がレジメを作成し、児童館事業や機能について、児童館と児童クラブについて、児童対応や個人情報保護、守秘義務について明記し周知しており、児童館事業やこどもの人権について理解を深める取り組みとなっている。市民センターや社会福祉センターとの共催で、利用者に様々な体験の機会を提供する等、地域全体でこどもの育ちを支える環境作りに努めている。 放課後児童健全育成事業においては、日々行っていた「帰りの会」を廃止し、必要に応じた集会に変更したことで遊びが継続し、過ごししの充実や子どもの満足感の高まりに繋がった。学校との定期的な情報共有に際して各学年の担任と時間を設定して懇談し、丁寧な情報共有と職員同士の交流により、児童への適切な支援と学校との連携強化が図られている。	A

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課